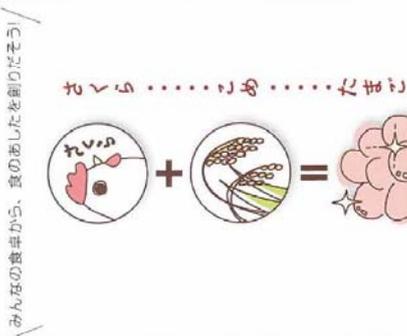


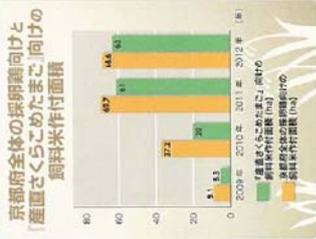
さくらこめたまごが、新たな地産地消サイクル



「さくらこめたまご」を通じて日本の食、日本の農業を応援しませんか。

【総務】京都市生活価値観組合

京都にわたりが、京都でとれたお米を食べて生んだ「さくらこめたまご」。さあ食べるのは、京都でくらすわたしたちです。



京都産
京丹後市 京丹波町 鳥取市 福知山市 京田辺市 南丹市から
林耕田や耕作放棄地を「活用」

京都育ち
わたし さくら

飼料米は約10%

鶏卵は卵をかえることで、卵黄の色が変わります。今回は、これまでのさくらこめたまごよりもだけ変わらないよう飼料全体の約10%を飼料米にすることを始めました。

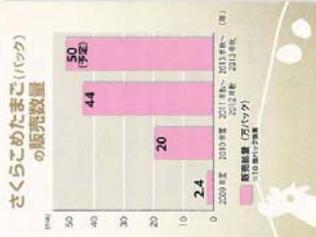
1個1円の応援

さくらこめたまごは従来のさくらこめより1個あたり1円安くしています。この1円で飼料米と、たまごの生産者を応援します。

【総務】京都市生活価値観組合
「さくらこめたまご」を毎週1パック利用すると...1年間で約20㎡(約12畝)の水田を有効活用したことになります



▶「まちづくり市民わいわいプロジェクト」のみなさんと、京都生活価値観組合員、中央のかかしは、地域の「かかしコンテスト」の出品作を譲り受けたもの。田んぼのシンボルになっていきます。



さくらこめたまごができた理由



おいしい♪
だけじゃない!?

京都府飼料用米生産利用推進研究会

いま、世界の食料は...

世界人口の増加

現在、世界の人口は70億人。2030年には82億人に、今世紀中には100億人に達すると予想されています。



食料輸出国が輸入国へ

ブラジル、ロシア、インド、中国、含み合わせて30億人の人口を持つ国が、急速に発展しています。今後、人々の所得も増え食生活も変わると予想されます。これまで、食料輸出国だったこれらの国も人口増加と経済発展により、食料輸入国へと変わりつつあります。

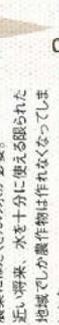
耕作面積の減少

地球温暖化、異常気象、砂漠化などには農地から工業地、宅地への転換もあって、世界の耕作面積は年々減少を続けています。



水不足

地球上にある水(淡水)は限られています。人口増加、地下水の枯渇、水質汚染などで世界中では利用できる水の量がどんどん減っています。農業にはたくさんの水が必要。近い将来、水を十分に使える限られた地域でしか農作物は作れなくなってしまう。



穀物が燃料へ

トウモロコシなどの穀物がバイオエタノール原料としても使われています。



いま、わたしたちの食卓は...



お米を食べる量が減り、その分、肉や油を使った料理をたくさん食べるようになっています。

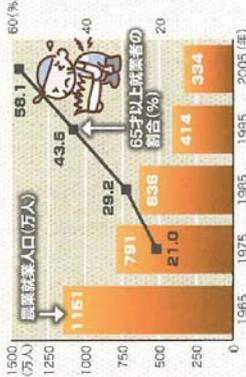


いま、日本の農業、農村は...

1960年代からの40年間で、約130万haの耕地がなくなりました...

労働の厳しさとそれに見合う収入を得られないことから、農業の担い手はどんどん減少しています。現在、農業に就く人の約6割が65歳以上。今後ますます高齢化が進み、農業従事者はますます減少すると見られています。

耕地面積も、この40年間で600万ヘクタールから469万ヘクタールに減少しました。このままでは日本から農業そのものが消えてしまうことになってしまいます。



自給率をあげようと思ったら、畜産の飼料の自給率を少しでもあげていく努力が必要なんだ!

いま、日本の農業、農村は...

1960年代からの40年間で、約130万haの耕地がなくなりました...



耕作放棄地が約40万ha、京都でも約2,600ha(約5km四方)

農産物の確保と食への安心をつくるには、心やさしい水を守り、豊かな水を保全する必要がある。気候の上昇をよわらせるやわらかな水をもつ農業・農村が危ない!!

食料を生産し、わたしたちのくらしと深くつながる農業と農村を守っていかなくちゃ!